



# 営農NEWS



## ナシの微小害虫ニセナシサビダニとチャノキイロアザミウマの発生と防除

茨城県のナシ産地では、近年、ニセナシサビダニによる被害と酷似する症状のチャノキイロアザミウマによる被害が発生しています。チャノキイロアザミウマは古くからチャの害虫として知られ、果樹ではブドウやカキ、カンキツなどで重要害虫とされてきましたが、ナシでの被害も数年前から問題となっています。

### 1 ニセナシサビダニの発生生態と防除対策

体長は0.2mm弱（ナミハダニやカンザワハダニは約0.5mm）と非常に小さく、肉眼で観察することは困難です。成虫の体色はクリーム色で、うじ虫型のダニです。

ナシ徒長枝の上位葉など、硬化する前の軟らかい葉に多く寄生して加害します。葉裏の表面が薄茶色のサビ症状に変色、激しくなると萎縮して主に葉が裏側に湾曲し、早期落葉することもあります。チャノキイロアザミウマでは徒長枝全体の葉が変色する傾向なのに対し、ニセナシサビダニでは徒長枝の先端部で被害の多い傾向があります。

ニセナシサビダニの発生時期は5月頃からで、6～7月にかけて最盛期となります。

なお、近年はニセナシサビダニによると思われる被害として、モザイク様症状や奇形葉の発生が問題となっています。

### 2 チャノキイロアザミウマの発生生態と防除対策

体長は1mm弱（野菜や花などで知られているミカンキイロアザミウマは約1.5mm）とかなり小さく、成虫の体色は黄色か淡黄色、翅を閉じると背部中心に黒色の筋がみえます。幼虫は成虫より小さく、体色は同じですが翅を持っていません。

ニセナシサビダニと同様、徒長枝の上位葉に多く寄生して被害を生じます。チャノキイロアザミウマの場合は、加害初期や低密度時には葉裏の葉脈に沿って褐変しますが、寄生が多くなると、葉裏全体が黒褐色に変色します。被害が激しくなると、葉が表側に湾曲し、早期落葉します。幼果を加害する場合があります。

ナシ園での成虫の発生は、地域や年次により変動があるものの、7月中旬頃から増加して、7月下旬～8月中旬頃にかけて最盛期になります。

ニセナシサビダニの防除を行っても被害が収まらない場合や、被害が遅い時期までみられる場合は、チャノキイロアザミウマによる被害の可能性があります。

### <防除のポイント>

- 1) いずれの害虫も先端部の軟らかい葉に多く寄生するため、徒長枝等を定期的に観察して早期発見に努め、多発生してからでは防除効果が上がりにくいので、発生初期の防除を徹底します。
- 2) SSで薬剤防除を行う場合、新梢先端まで薬液が付着するようにドリフトに注意しながら送風量を上げます。
- 3) 薬剤の選択に当たっては対象害虫を確認し、収穫前日数に十分注意して実施してください。

表1 ナシにおけるニセナシサビダニ、チャノキイロアザミウマの主な防除薬剤（令和2年6月3日現在）

薬剤名	ニセナシサビダニ	チャノキイロアザミウマ	希釈倍数	使用時期 / 使用回数	分類
コテツフロアブル	○	○	2,000倍	収穫前日まで / 3回以内	13
	○		2,000～3,000倍		
モベントフロアブル	○		2,000倍	収穫14日前まで / 3回以内	23
カネマイトフロアブル	○		1,000倍	収穫前日まで / 1回	20B
コロマイト乳剤	○		1,000倍	収穫前日まで / 1回	6
コルト顆粒水和剤		○	3,000倍	収穫前日まで / 3回以内	9B
ディアナWDG		○(アザミウマ類)	5,000～10,000倍	収穫前日まで / 2回以内	5
ハチハチフロアブル	○	○(アザミウマ類)	2,000倍	収穫30日前まで / 1回	21A
ウララDF		○	2,000倍	収穫14日前まで / 2回以内	29

注) 分類欄には、IRACコードを記載しました。同一分類(コード)は作用点が同じなので、連用は避けてください。

農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。

※JA全農いばらきホームページでもご覧になれます。



生産資材部 営農企画課

電話：029-291-1012 FAX：029-291-1040